

# 私を感動させた1冊

## シネマ・エッセイスト高野てるみさん

### 「椿姫」デュマ・フィース著



フランス映画などの配給が主演で映画になってい  
る。「カリスマファッシュ  
役で、シネマ・エッセイ  
トの高野てるみさんに、19  
世紀の作家・小デュマの  
「椿姫」(若波文庫他)を  
語ってもらった。

劇化、オペラ化され、1  
937年にはグレタ・ガル  
た

### 椿姫



540.1  
若波文庫



高野さん  
の著書『コ  
コ・シヤネ  
ル 女を磨  
く言葉』の  
第2弾で、  
新刊の『コ  
コ・シヤネ  
ル 凜とし  
ある。今なら1億円近い感

# 女性 の 絶妙な恋の駆け引き

て生きる言葉」(ともにP  
HP文庫)にも、取り上げ  
られている言葉だ。ココ・  
シヤネルが無名時代にパト  
ロンと生活をともししたこ  
とはよく知られている。  
物語は椿の花を好み、椿  
姫と称されるパリの高級娼  
婦マルグリットと青年アル  
マンの悲恋がテーマだ。  
気になるのは高級娼婦と  
いう職業である。作中に彼  
女の年間生活費が10万と  
ある。今なら1億円近い感  
覚である。日仏の違いかと  
聞くと、高野さんは「吉原  
の花魁(おいらん)を考え  
ればいいのでは。花魁は大  
名や豪商をパトロンに持つ  
一方で好きな客と遊んだ。  
それと同じですね」と語  
る。

椿姫には老公爵や伯爵の  
パトロンがいた。アルマン  
は路上で彼女を見初め、劇  
場で話しかけられたこと  
で、恋の虜(とりこ)にな  
る。  
作中、椿姫が周りの男た  
ちに意味あり気な視線を投  
げかけ、気を持たせる場面  
がある。女性というのはま  
なざしを武器にするのかと  
疑問をぶつけると、高野さ  
んは「彼女は裏社交界のス  
ター的女性だから、絶えず  
周りに視線を投げかけるの  
だと思えます。スター的女  
性ならではの所作ですね」  
と話す。そういえば、「糸  
屋の娘は目で殺す」という  
戯れ句が日本にある。  
続いて、「面白いのは2  
人が最初に接近したとき、  
アルマンが羞恥で顔を赤く  
したのを椿姫に笑われま  
す。そこで2度目のときは  
椿姫の愛想笑いにアルマン  
は応じません。恋の駆け引  
きを感じます」と説く。  
椿姫は年収80000の  
青年の1途な恋心にほださ  
れ、自宅へ招く時間  
をへ五時から六時までと、  
十一時から十二時までなら  
いつなりとも」としたのは  
その時間帯だけがパトロン  
とかち合うおそれがないか  
らである。だが最終的には  
アルマンの父の横やりで、  
椿姫は身をひ  
くことにな  
る。「凜とし  
た引き際にコ  
コも感動したよつた」と高  
野さん。  
「女性の恋の駆け引きが  
絶妙で読み所です」という  
高野さんは知友の女性の多  
くが本書を読んでいたこと  
を知り、驚いた。「皆、恋  
愛について学ぶのです。ま  
さに本書は恋愛の教則本で  
す」と話を結んだ。

(文芸評論家・長野祐二)

英傑の日本史

智謀



彦(40)



どではないが商業を盛んに  
し利益を得ている。一方、  
基本的には農業しか収入の  
道がない勝頼は経済的にど  
敵方の記録ではあるが信  
長に関する1級史料「信長  
公記」には、当時の武田家  
には賄賂が横行していたと